

取組項目 公民館運営のあり方の見直し

①職員人件費の削減目標額 1,900 万円が 1,000 万円に減額された理由

- ・高幡台分室のあり方について、今年度策定している公民館の個別施設計画の中で、高幡台分室という施設のみにこだわるのではなく、市内全域のコミュニティ施設において、貸室の利用率の低い箇所や、高幡地域にこだわることなく、市内の全域、各地域の市民による学びのつながりへと目を向ける計画が示され、高幡台分室に職員 3 人を常駐させることよりも、中央公民館に集結させて、高幡台分室、地域コミュニティ担当として活動してもらう方向性がみえてきたため。
- ・中央公民館に集結し、業務分担をきちんと整理し、高幡台分室の貸室、受付業務を委託するなどして、総合的に勘案して減額したものの。

②R6 年以降各年度の財政効果額 600 万円の記載がなくなった理由

- ・高幡台分室の貸室、受付業務を委託するなど、個別施設計画の策定を機に、今後の方向性が変更していくことが考えられるため、安易に、また明確に金額を提示していくことが困難なため、今現在未記載としたもの。

③「民間活力の導入の実施」という記載がなくなった理由

- ・高幡台分室の運営自体を民間に委託や指定管理などが考えられるが、個別施設計画の策定の中で、現時点で、あえて民間活力の導入により運営していく必要性が見通せなくなり、明確な方向性が示せなくなったため。

④「公民館運営機能全体としての検討」状況

- ・個別施設計画の策定や日野本町地区公共施設再編基本構想・基本計画の検討について、今後活発な検討、協議が行われることになるため、中央公民館は日野本町地域の再編の流れに乗り、流動的になっていく。
- ・高幡台分室に地域の公民館事業を集約するのではなく、今後は、市内のコミュニティ施設や地区センターなどを有効活用し、市内全域に公民館事業を展開していく動きが出てくると考えている。
- ・新たな施設を建設するのではなく、今ある施設を有効に活用し、地域に、近くの施設を有効活用し、市内全域に市民による学びのつながり、拡大を目指すことが考察されている。市の目標である、「縮充」の方向性を目指すことになる。

⑤高幡台分室の今後の見通し・教育センター施設との連携状況と課題

- ・高幡台分室の今後の見通しについては上記のとおり。
- ・教育センターとは連携し、良い関係で旧高幡台小学校の利活用を遂行している。
- ・高幡台分室を貸室、受付業務を委託にする際に、予算統括課の教育センターと十分に協議、関係を密に行い、円滑に遂行していく。

【その他】

- ・今年度策定予定の個別施設計画(素案)、今後の公民館のあり方については、市長、副市長にはすでに説明済みです。